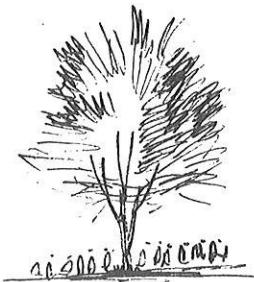


ひかりのこ

光の子



No.149 2011.11.1

●年間聖句 光の子として歩みなさい。(エフェソの信徒への手紙5章8節)



「ある夏の日に」

挿絵・中島由起子

「野邊のまほろば」

大利根の土手一線や秋晴るる

広やかに水底高し利根の秋

月光を奏でて絶えず水流れ

ひしめきて水を余さず布袋草

ふるさとは野邊のまほろば草の花

千枚田先の爽秋未來館
爽やかに光の子どもたち光る

落合 水尾
(「浮野」主宰)

ひかりのこ No.149

近所に住むユキのお友達は、この春こそつて幼稚園に入園した。ユキは隣の市にある療育施設に通っているため、最近はめつきり会う機会が少なくなつた。ある初夏の夕刻のこと、私とユキが散歩に出ると、通園バスで帰つてきた子供達と顔を合わせた。少し見ない間に制服姿も板につき、ひと回りたくましくなつたように見えた。それは眩しくもあり、ほんの少しだけ、置いてけぼりを喰つたような淋しさを感じる瞬間でもあつた。

この子達が片言でおしゃべりを始めた頃、駆けっこやままごとなどで仲良くな一緒に遊べるようになり始めた頃；幾度となく私はこの淋しさに出会い、葛藤し、そして乗り越えてきた。四歳を目前に、ユキの小さなお友達は、赤ちゃんの頃から一緒に成長してきたユキが、他の子と違っていることに気づき始めていることだろう。それがたまらなく切なかつた。

ゆっくりと暮れていく初夏の路地裏でぼつんと一人、ユキはタンポポの綿毛を吹いていた。ふと私は、小学校の

「共育ちカソガルー日記」

(13) マミちゃんの思い出

近藤みちる

近所に住むユキのお友達は、この春

こそつて幼稚園に入園した。ユキは隣

の市にある療育施設に通っているため、

最近はめつきり会う機会が少なくなつ

た。ある初夏の夕刻のこと、私とユキ

が散歩に出ると、通園バスで帰つてき

た子供達と顔を合わせた。少し見ない

間に制服姿も板につき、ひと回りたく

ましくなつたように見えた。それは眩

しくもあり、ほんの少しだけ、置いて

けぼりを喰つたような淋しさを感じる

瞬間でもあつた。

この子達が片言でおしゃべりを始めた頃、駆けっこやままごとなどで仲良くな一緒に遊べるようになり始めた頃；

幾度となく私はこの淋しさに出会い、

葛藤し、そして乗り越えてきた。四歳

を目前に、ユキの小さなお友達は、赤

ちゃんの頃から一緒に成長してきたユ

キが、他の子と違っていることに気づ

き始めていることだろう。それがたま

らなく切なかつた。

ゆっくりと暮れていく初夏の路地裏

でぼつんと一人、ユキはタンポポの綿

毛を吹いていた。ふと私は、小学校の

同級生だったマミちゃんのことを思い出した。

マミちゃんとは小学校一、二年のク

ラスを供にした。体はクラスで一番大

きかつたがしゃべることが苦手で、勉

強も体育も図工も、みなと同じように

は出来なかつた。教室の隅つこの席で、

いるのかいのいかわらないくらい

大人しく座つていた。いつも少し困つ

たような笑顔を浮かべていた。

クラスメイト達は最初のうち、マミ

ちゃんとどんなふうにお友達になつたらしいのかわからなかつた。おせつか

いに世話を焼く子、からかってマミち

ゃんの反応をおもしろがる子。みな子

供心に、マミちゃんに何らかのハンデ

イがあることは理解していたよう思

う。休み時間の鬼ごっこでは、マミち

ゃんが鬼にならないように暗黙のル

ルができていた。

私はマミちゃんの次に背が高かつた

ので、席順も背の順も並んでいた。給食当番もペアだった。マミちゃんは私のことを「みちるちゃん」と呼んでくれるようになった。マミちゃんがクラ

スの中で最初に覚えてくれた名前だったので、私は少し誇らしかつた。

ある日の給食当番のこと、私とマミちゃんは、並んで野菜スープをよそる係をしていた。先生が席を外したときに、誰かが「マミちゃんは指をしゃぶるから手が臭い」とからかい始めた。「スープ臭くて飲めないよ」「気持ち悪い」みんな調子に乗り出した。マミちゃんはいつものように少し困つたようだつた。私はマミちゃんに「もうスープよそらないでいいよ」と言って、一人でスープをよそり続けた。マミちゃんの顔を見ることが出来なかつた。

翌日、マミちゃんは学校をお休みした。担任の先生はマミちゃんの欠席の理由を風邪だと言つた。でも私は後ろめたさに、喉の奥の方がずんと重たくなつた。みんな同じ気持ちだつた。誰が言い出したのか、私はマミちゃんを迎えて行くために、休み時間に先生に内緒で学校を抜け出した。歩いて十分ほどとのろにマミちゃんの家はあ

が出てきて、お母さんに促されて「ありがとう」と言つた。私はマミちゃんに対し申し訳ない気持ちで一杯になつたが、どうやって謝ればよいのかわからなかつた。それなのに、マミちゃんのお母さんはつっこりと微笑んで私に何度も何度も「ありがとうございます」と言つてくれた。

この時から、マミちゃんと私は距離は、少しずつ縮まっていったようになつたが、どうやって謝ればよいのかわからなかつた。それなのに、マミちゃんは特学に移り、机を並べることは一度となつた。

五時のチャイムが鳴つた。私はふと離は、少しずつ縮まっていったようになつたが、どうやって謝ればよいのかわからなかつた。それなのに、マミちゃんが重なつた。そのとき、私はようやく気づいた。マミちゃんのお母さんは、きっと全てを察していたのだ。

私は、きつと全てを察していたのだ。愛してくれたのだ。その愛の深さが切なくて、涙が溢れて止まらなかつた。

大切なのに、なぜだかこの時私の胸は温かい気持ちで満たされていた。

（私もマミちゃんのお母さんみたいになれるかな）涙を拭くと、空に広がる夕映えが笑っているみたいにきらきらと眩しかつた。

「ごめんね」のかはりに吹いてしゃぼん玉

の「大変さ」は子どもの抱えているそれ

がそのまま格別なものでした。それよりもまず連日報道されている「目に見えない放射能の影響」を考えざるをえませんでした。一番先に守られなければならぬ最も小さいもの、最も弱いものが充分守られますように。何も心配することもなく思つたりで遊びを満喫し、おいしく食べ、ぐつり眠れる環境を取り戻せますように。特にこれから先が長い子どもたちです。今という時に限らず、これから先の明るい未来への希望をもつて歩めますように。

光の子どもの家は、これまで充分大変な思いをしてここにたどりついた子どもたちの家です。出来る限り安心して暮らせるように、普通の家庭に近い形をと基本としてきました。それは二十七年前の創立の時からずっと変わっていません。ひとりの保育士が五名以下の男女混合、二歳から十八歳までの縦割りグループの担当者となり、寝食を共にしながら子どもの最も近い位置で生活を創つていきました。そのようなグループホームが地域に二軒、そして本園はふたつのグループが集まつて一軒を形成し、三軒からなります。その中で担当グループは光の子どもたちの核であり、基本となる生活単位です。当初の想い、理想としたのは「慕い、

出会えたことを大切に

竹花信恵

いつの間にか暑い夏が過ぎ、過ごす季節となりました。今年の夏の厳しさはまた格別なものでした。それよりもまず連日報道されている「目に見えない放射能の影響」を考えざるをえませんでした。一番先に守られなければならぬ最も小さいもの、最も弱いものが充分守られますように。何も心配することもなく思つたりで遊びを満喫し、おいしく食べ、ぐつり眠れる環境を取り戻せますように。特にこれから先が長い子どもたちです。今という時に限らず、これから先の明るい未来への希望をもつて歩めますように。

光の子どもの家は、これまで充分大変な思いをしてここにたどりついた子どもたちの家です。出来る限り安心して暮らせるように、普通の家庭に近い形をと基本としてきました。それは二十七年前の創立の時からずっと変わっていません。ひとりの保育士が五名以下の男女混合、二歳から十八歳までの縦割りグループの担当者となり、寝食を共にしながら子どもの最も近い位置で生活を創つていきました。そのようなグループホームが地域に二軒、そして本園はふたつのグループが集まつて一軒を形成し、三軒からなります。その中で担当グループは光の子どもたちの核であり、基本となる生活単位です。当初の想い、理想としたのは「慕い、

慕われ、かばい、かばわれ」という兄弟姉妹のような子ども同士の関係であり、うな紺にそれぞれが支えられている関係もあります。

それでもこのところ、そのグループがそのまま格別なものでした。それよりもまず連日報道されている「目に見えない放射能の影響」を考えざるをえませんでした。一番先に守られなければならぬ最も小さいもの、最も弱いものが充分守られますように。何も心配することもなく思つたりで遊びを満喫し、おいしく食べ、ぐつり眠れる環境を取り戻せますように。特にこれから先が長い子どもたちです。今という時に限らず、これから先の明るい未来への希望をもつて歩めますように。

光の子どもの家は、これまで充分大変な思いをしてここにたどりついた子どもたちの家です。出来る限り安心して暮らせるように、普通の家庭に近い形をと基本としてきました。それは二十七年前の創立の時からずっと変わっていません。ひとりの保育士が五名以下の男女混合、二歳から十八歳までの縦割りグループの担当者となり、寝食を共にしながら子どもの最も近い位置で生活を創つていきました。そのようなグループホームが地域に二軒、そして本園はふたつのグループが集まつて一軒を形成し、三軒からなります。その中で担当グループは光の子どもたちの核であり、基本となる生活単位です。当初の想い、理想としたのは「慕い、

慕われ、かばい、かばわれ」という兄弟姉妹のような子ども同士の関係であり、うな紺にそれぞれが支えられている関係もあります。

それでもこのところ、そのグループがそのまま格別なものでした。それよりもまず連日報道されている「目に見えない放射能の影響」を考えざるをえませんでした。一番先に守られなければならぬ最も小さいもの、最も弱いものが充分守られますように。何も心配することもなく思つたりで遊びを満喫し、おいしく食べ、ぐつり眠れる環境を取り戻せますように。特にこれから先が長い子どもたちです。今という時に限らず、これから先の明るい未来への希望をもつて歩めますように。

光の子どもの家は、これまで充分大変な思いをしてここにたどりついた子どもたちの家です。出来る限り安心して暮らせるように、普通の家庭に近い形をと基本としてきました。それは二十七年前の創立の時からずっと変わっていません。ひとりの保育士が五名以下の男女混合、二歳から十八歳までの縦割りグループの担当者となり、寝食を共にしながら子どもの最も近い位置で生活を創つていきました。そのようなグループホームが地域に二軒、そして本園はふたつのグループが集まつて一軒を形成し、三軒からなります。その中で担当グループは光の子どもたちの核であり、基本となる生活単位です。当初の想い、理想としたのは「慕い、

「自分の子どもでもないのに。自分の子どもでも大変なのに」という言葉を、これまで多くの方の励ましの中で伝えていました。

実際卒園して今に至る長い年月をそのよ

うな紺にそれぞれが支えられている関係もあります。

それでもこのところ、そのグループが

そのまま格別なものでした。それよりも

まず連日報道されている「目に見えない

放射能の影響」を考えざるをえませんでした。一番先に守られなければならぬ最も小さいもの、最も弱いものが充分

守られますように。何も心配することもなく思つたりで遊びを満喫し、おいしく食べ、ぐつり眠れる環境を取り戻せますように。特にこれから先が長い子どもたちです。今という時に限らず、これから先の明るい未来への希望をもつて歩めますように。

光の子どもの家は、これまで充分大変な思いをしてここにたどりついた子どもたちの家です。出来る限り安心して暮らせるように、普通の家庭に近い形をと基本としてきました。それは二十七年前の創立の時からずっと変わっていません。ひとりの保育士が五名以下の男女混合、二歳から十八歳までの縦割りグループの担当者となり、寝食を共にしながら子どもの最も近い位置で生活を創つていきました。そのようなグループホームが地域に二軒、そして本園はふたつのグループが集まつて一軒を形成し、三軒からなります。その中で担当グループは光の子どもたちの核であり、基本となる生活単位です。当初の想い、理想としたのは「慕い、

「自分の子どもでもないのに。自分の子どもでも大変なのに」という言葉を、これまで多くの方の励ましの中で伝えていました。

実際卒園して今に至る長い年月をそのよ

うな紺にそれぞれが支えられている関係もあります。

それでもこのところ、そのグループが

そのまま格別なものでした。それよりも

まず連日報道されている「目に見えない

放射能の影響」を考えざるをえませんでした。一番先に守られなければならぬ最も小さいもの、最も弱いものが充分

守られますように。何も心配することもなく思つたりで遊びを満喫し、おいしく食べ、ぐつり眠れる環境を取り戻せますように。特にこれから先が長い子どもたちです。今という時に限らず、これから先の明るい未来への希望をもつて歩めますように。

光の子どもの家は、これまで充分大変な思いをしてここにたどりついた子どもたちの家です。出来る限り安心して暮らせるように、普通の家庭に近い形をと基本としてきました。それは二十七年前の創立の時からずっと変わっていません。ひとりの保育士が五名以下の男女混合、二歳から十八歳までの縦割りグループの担当者となり、寝食を共にしながら子どもの最も近い位置で生活を創つていきました。そのようなグループホームが地域に二軒、そして本園はふたつのグループが集まつて一軒を形成し、三軒からなります。その中で担当グループは光の子どもたちの核であり、基本となる生活単位です。当初の想い、理想としたのは「慕い、

「自分の子どもでもないのに。自分の子どもでも大変なのに」という言葉を、これまで多くの方の励ましの中で伝えていました。

実際卒園して今に至る長い年月をそのよ

うな紺にそれぞれが支えられている関係もあります。

それでもこのところ、そのグループが

そのまま格別なものでした。それよりも

まず連日報道されている「目に見えない

放射能の影響」を考えざるをえませんでした。一番先に守られなければならぬ最も小さいもの、最も弱いものが充分

守られますように。何も心配することもなく思つたりで遊びを満喫し、おいしく食べ、ぐつり眠れる環境を取り戻せますように。特にこれから先が長い子どもたちです。今という時に限らず、これから先の明るい未来への希望をもつて歩めますように。

光の子どもの家は、これまで充分大変な思いをしてここにたどりついた子どもたちの家です。出来る限り安心して暮らせるように、普通の家庭に近い形をと基本としてきました。それは二十七年前の創立の時からずっと変わっていません。ひとりの保育士が五名以下の男女混合、二歳から十八歳までの縦割りグループの担当者となり、寝食を共にしながら子どもの最も近い位置で生活を創つていきました。そのようなグループホームが地域に二軒、そして本園はふたつのグループが集まつて一軒を形成し、三軒からなります。その中で担当グループは光の子どもたちの核であり、基本となる生活単位です。当初の想い、理想としたのは「慕い、

「自分の子どもでもないのに。自分の子どもでも大変なのに」という言葉を、これまで多くの方の励ましの中で伝えていました。

実際卒園して今に至る長い年月をそのよ

うな紺にそれぞれが支えられている関係もあります。

それでもこのところ、そのグループが

そのまま格別なものでした。それよりも

まず連日報道されている「目に見えない

放射能の影響」を考えざるをえませんでした。一番先に守られなければならぬ最も小さいもの、最も弱いものが充分

守られますように。何も心配することもなく思つたりで遊びを満喫し、おいしく食べ、ぐつり眠れる環境を取り戻せますように。特にこれから先が長い子どもたちです。

兄の死去

彼に感謝しなければならない最大のことは、学生結婚し、次々に子どもを作った私に、六十歳になるまで、経済的な支援を続けてくれたことである。同棲していたときには、兄にそのことを告げる手紙

つ
た
。

前
かし 和かん気
の兄はその障礙
を乗り越えて立
派な臨床医にな

山形大学学長 仙道 富士郎

五月十四日兄が亡くなつた。
私が大学二年のときに父が死去
したこともあり、親以上に世話に
なつた兄であつた。

ひかりのこ

時どき私は、音楽会に出かけたり、演劇の鑑賞に行つたりしている。本來ならば、私も家内も美術に拘わつてきた人間だから、絵や彫刻などの鑑賞を中心にするべきなのだろうが、家内の体調に合わせて、というより、家内が足が悪かつたものだから、どうしても音楽や演劇などに出かけることが多くなつてしまつたという訳である。

九木謙の中で

彫刻家
中島 瞳雄

「ううん、本番で失敗する
のが嫌なんだ。前もって修正しておけば良
いんでしょう？」

いでしょうか。美術の作品は残りま
す。でも、同時に恥を残すというこ
とも多いんですよ。私の場合はね。」
たわいもない雑談が続いた。

には、私は読売日響の会員でもあつた。

のような比較を考えたことはなかつた。こちらは、当たり前のことを何

「いや、全然ダメ。特に歌うこと

都合次第である。

まず制作を続けて「これで良し。で
き上つたぞ。」という段階で展覧会に
搬入する、という流れである。しか
し、実際は『これでOK!』と納得

んですが、生まれて間もなくの頃から、姉が日傘もささずに炎天下をおんぶして歩いたんですって。それで、すっかり陽焼けして焼きついてしま

湯原が好きになっていた
ところで先日、近くのホールで音
楽のコンサートがあった。終わって
から、知り合いの歌手の方とピアニ
ストの方と雑談をしていた。
「今日○○の歌をうたつた方が、
ちょっと歌詞を間違えちゃつたみた
いですね。別にそれを責める訳じや
ないんですが。人間だから、そりや
あり得ることですよね。ご愛敬です
よ。」

「それまでも音楽は良いです」と、会の搬入の日が迫ってしまい、仕方なしに制作打切り、というのが現実ではあった。

「かと言ふに、この」二枚のビデオテア裏という病気を患つて、ノドをすつかりダメにしてしまつたんです。これじやあ歌手はダメでしょう。もし私が、声も良く、スタイルが抜群で、男性的で美しい容貌をしていたとすれば、今ごろは日本のプログラシド・ドミンゴかパバロッティ、或いはホセ・カレーラスなどと騒がれて、華やかなステージの上で万雷の拍手を浴びていたでしょうに、残

「そう、そこがね、音楽と美術と違うところなんでしょうね。」と歌手の方。

「でもね、音楽は瞬間的に消えちゃうでしょう。CDなどで残せるけど、ナマの音楽そのものじゃありませんからね。」「そうですね。でも、消えてしまって。

念ながら……」
ここまでくると、歌手の方、ピニアリストの方も呆れ顔で、言葉を失つていたようである。

を出すと、「そんなことでは相手の人が可哀そうだろう」と返事がきて、札幌の彼女（現在の妻）の実家まで出向いてくれ、彼女の両親に、二人のことを認めてくれるよう話を進めてくれた。

旧制中学時代にバスケットをしていた兄は、開業後、近郊の女子高校のバスケット部のサポートにのめり込み、三十年近く、十人近いバスケット部員を常に下宿させていた。なんでもバリバリとやる男だったが、母親は怖かったらしく、最初に彼女らを下宿させるときに、母親の留守を狙つてことを起こした。帰ってきた母親は案の定怒つて、「煮た味噌では足らないし——」などと言つた。そこには、一年間に食する味噌を自宅で用意していた。兄は行き場を失い、「別に女を困つたわけでもないのに、そんなに怒らなくとも」と言つてしまつた。そのあとの母の怒りようといつたら、そばで聞いていた私にも兄が氣の毒に思えるほどであった。

こんなほほえましいことだけではなく、兄は結構難儀なことにであつた。私は今でも兄に非はなかつたと思つているのだが、彼はトラブルに巻き込まれて、二年間の医業停止という処分を受けたことがある。再開した時に備えて、働く場所を失つた従業員のおもな人々に、二年間給料を払い続けた。そして、なんと私は無報酬の彼から、この間も経済的な援助を受け続けたのである。けだし、恥知らずではある。医業を再開したとき多くの患者さんが押し掛け、側でみていた私もとてもうれしかった。死期が近づいたとき、彼の話すことは良く聞き取れなくなつた。あるとき、懸命になつて彼が何を訴え続けていた。私には彼の言つてることは全く分からなかつたが、介護をし続けてきた人々はなんとか分かるらしく、「入场券を自分で持つて、大相撲の入場券を自分と聞こえたようだ。苦労の末に周囲の皆が了解したことは、送られたと聞こえたようだ。苦労の末に周囲の皆が了解したことは、送られたときてきている大相撲の入場券を自分は使うことが出来ないから、私は代わりに行つてきたらどうかといふ、私に対する気遣いであつた。十分に表現する術を失つた男が甘肃の氣遣いを見て、無性に泣けた。様態がおもわしくないといううことで、四、五日秋田の実家に詰めていたが、実は五月十五日に私は講演を引き受けていたので、講演の準備もあり、十三日に秋田から山形に一時帰つたところ、十四日

医業停止という処分を受けたことがある。再開した時に備えて、働く場所を失った従業員のおもな人たちに、二年間給料を払い続けた。そして、なんと私は無報酬の彼ら、この間も経済的な援助を受け続けたのである。けだし、恥知らずではある。医業を再開したとき、多くの患者さんが押し掛け、側でみていた私もとてもうれしかった。

死期が近づいたとき、彼の話すことは良く聞き取れなくなつた。あるとき、懸命になつて彼が何かを訴え続けていた。私には彼の言つていることは全く分からなかつたが、介護をし続けてきた人々にはなんとか分かるらしく、「入場券」と聞こえたようだ。苦勞の末に周囲の皆が了解したことは、送られてきている大相撲の入場券を自分は使うことが出来ないから、私に代わりに行つてきたらどうかといふ、私に対する気遣いであつた。十分に表現する術を失つた男が示す気遣いを見て、無性に泣けた。

様態がおもわしくないということで、四、五日秋田の実家に詰めていたが、実は五月十五日に私は講演を引き受けたので、講演の準備もあり、十三日に秋田から山形に一時帰つたところ、十四日

この間に不思議なことが起つた。山形に一時帰宅した時に、講演のときの資料が全部入つていたカバンが紛失していることに気付いた。仕方なく、久しぶりに紙に箇条書きしたレジメを使って二時間の講演を終えた。しかし、講演をなんとか切り抜けたとは言え、その講演の話だけではなく、私の知的財産はすべてパソコンに入っているのである。

しかし、しかしである。十五日に講演を終え、秋田にとんぼ帰りしたときに、ホテルから出発しようと車のトランクを開けたときにそのカバンが見つかつたのである。私は粗雑で、探し物は苦手だが、妻は「刑事コジヤック」と言われるほど、探索好きである。その彼女が懸命に探しても見つからなかつたのに、忽然と現われたのである。色々解釈はつくのだが、やはり神隠しのように思えてならない。兄は死期になぜパソコンの入つたカバンを私の前から隠したのか、いまだに私は分からずにはいる。



今年も6月4日に基準外職員確保のための
「小さくても大バザー」を無事行うことができました。
たくさんの方々にご協力をいただき、
売り上げ総額は**541,085円**となりました。
本当にありがとうございました。
来年も同様のバザーを行う予定ですので、
引き続きバザー用品のご協力をよろしくお願ひします。

～光の子どもの家 バザー実行委員会～

日誌抄 = 子どもと創る暮らしの風景 =

2011年4月～6月

2011年4月現在

幼児8名 小学生11名 中学生11名 高校生6名 措置
外4名 計40名

- 1日 新任職員として坂田光一指導員と藤沼幸子指導員が着任 子どもたちとの暮らしに大きな希望を持って励む
- 4日 幼稚園や小学校など各教育機関に入学する子どもたちまた一級上がる子どもたちをお祝いする進級進学 祝い 着慣れない制服姿が初々しい
- 5日 幼稚園入園式
- 8日 小中学校入学式 東大宮教会山ノ下恭二牧師による 夕礼拝 礼拝奉仕感謝
- 20日 若月健吾牧師による職員礼拝 礼拝奉仕感謝
- 22日 東埼玉バプテスト教会木田牧師による夕礼拝 礼拝 奉仕感謝
- 24日 イースター 東大宮教会にてイースターの祝会に参加
- 5月
- 4日 子どもまつり 子どもたちがそれぞれに用意してきた出し物や作品を披露 近所のお友だちや小学校の先生など来訪してくださり賑やかな一日
- 11日 赤十字奉仕団様による除草作業 光の子どもの家後援会様によるそば会 あいにくの雨で除草作業は中止だったがお集まり下さった方々と共に美味しいうどんを頂く 感謝
- 17日 中学校との連絡会 これまでにない人数の中学生がお世話になっている 丁寧な話し合いを持ってくだ

さり心より感謝 思春期を迎えている年齢の子どもたちの難しさを改めて考える

- 28日 第95回理事会
- 6月
- 4日 基準外職員確保の為の小さくても大バザー 今年も聖学院大学と青山学院大学キリスト教学生会の学生がボランティアに来て下さる 多くの支援者の方々からバザー物品のご協力があり今年も盛況 心より感謝
- 7日 ILBS国際福祉協会受領式へ菅原SVと小西指導員 感謝
- 23日 幼稚園との連絡会 今年度は幼稚園児の多い光の子どもの家 細かい情報交換を行う 日頃からのご協力を感謝
- 26日 光の子どもの家にて東大宮教会教会学校の教師の方々との懇談会 開設当初から続く子どもたちへの関わりを心より感謝 卒園生が教会に顔を出す事も多く貴重なご支援

＜4～6月の物品ご寄贈者＞

市川光一 松本明子 市川輝彦・美津子 大川誠子 後藤利子
竹内阿久利 神田美智子 株式会社チュチュアンナ 古川景子
福島章 溝呂木武幸 烏越宏子 福島明美 株式会社スナッパー
水戸部如玉 中川キリスト教会 山ノ下恭二 斎藤康光
株式会社カーブス古河店 芹沢美保 岡本雅道 奥田哲也
田口宏 綱島五郎 小山田貴子 他多数の各位様

☆6月のバザー物品のご協力本当に感謝致します

今後ともよろしくお願ひ致します (洋)

／＼／＼ ————— 反 射 光 ————— ／＼／＼

☆暑い夏が過ぎ秋も深まってまいりました☆ご支援下さる皆様の温かい心を受けて子どもたちはこの夏も大きな成長を見せてくれました☆小学生の長野八ヶ岳登山から始まり同じく長野県佐久市の藤田様宅や秋田県の小西様宅など多くの方々にお世話をになりありがとうございました☆二学期に入り秋の運動会での子どもたちの活躍を喜びながら二〇一一年も終わりに近づいております☆来年三月に高校受験を迎える中学三年生は四名☆夏の頑張りに加えてそれぞれの志望校に向けて励み続ける彼らに伴走してまいります☆今年度で保育の短大を卒業する卒園生は保育士を目指してただ今就職活動中☆今年十月中旬に設立二年を迎えた「光の子どもの家自立進学基金」を利用して卒業（予定）する初めての卒園生です☆光の子どもの家で暮らし高校を卒業する子どもが選択できる進路の幅が皆さまのご支援によって確実に拡がっております☆私たちだけでは到底出来ない子どもたちへのサポートがおかげさまで可能になつた今改めて私たちのはたらきを省み子どもたちの最善の利益のためにという姿勢を堅持していく所存です☆これからもよろしくお願ひ致します☆

(洋)